

## ▽取組事例名

地域と連携した「学校ビオトープ」の整備

## ▽取組期間

平成25年度～  
(継続中)

## ▽取組概要

児童や地域住民の自然環境保全に関する意識の醸成や生物多様性の保全を図るとともに、学校と地域の交流促進につなげるため、学校・PTA・地域住民等が連携して行う「学校ビオトープ」の整備及びその活用を支援する。

## ▽取組みの背景

都市化が進むなか、自然の大切さを学ぶため、生き物等と身近に触れ合える場所の創出が求められている。

五感を使った環境教育の推進が求められているなか、地域に環境学習の実施に適した池などの自然がない学校が見受けられる。

また、自然が豊かな場所のなかには、危険な箇所もあり、安全性の面から校外での環境学習が積極的に行われにくい状況にある。

## ▽取組みの狙い・具体的内容

## (取組みの狙い)

子どもたちが安全・安心に生き物等と触れ合える場所を整備することで、環境学習や生物多様性の保全につなげるとともに、学校、PTA、地域住民などが連携して作業に取り組むことで愛着が生まれ、地域ぐるみで守り、育ててもらえることが地域の交流促進にもつながることを期待している。

## (具体的内容)

## ○平成25年度

モデルケースとして、松山市立久米小学校で、既存の池を活用したビオトープの整備を行った。

8月 第1回意見交換会を開催

10月 5年生の1クラスを対象に、愛媛大学の学生によるビオトープの授業を実施。

第2回意見交換会を開催

11月～1月 植栽の移植、池の生物の移動、ベンチや橋の設置作業

2月 池の水漏れ・排水補修

オープニング・セレモニー開催

## ▽取組みを進めていくなかでの課題・問題点（苦労した点）

既存のコンクリートと石の池を活用して、いかに自然環境に近づけるかについて、地域の方々や先生、PTAなどとの意見交換を行い、整備方針を検討した。

また、最小限の消耗品費での整備であったため、多くの方々に事業目的を理解して頂き、協力を得る必要があった。

## ☆工夫した点

整備に関わった先生やPTAの方が変わっても継続して維持管理ができるよう、整備当初からご協力を得られる地域の方に集まって頂き、将来的な維持管理を前提にした体制づくりを行った。

ビオトープの授業では、子どもたちにどんなビオトープにしたいか考えてもらい、理想のビオトープの絵を描いてもらうとともに、グループ毎に発表を行った。また、案内看板の作成などに児童が主体的に関わることで、愛着を持ってもらえるようにした。

清掃等の維持管理にも児童が主体的に関わることで、先生の負担軽減を図った。

## ▽取り組みの効果

学校内に、安全・安心に生き物を観察できる場所ができたことで、児童が自然に触れ合う機会が増え、安全に環境学習を行うことができるようになった。

ビオトープの整備に学校関係者や地域の方々など多くの人に関わったことで、学校と地域の連携強化につながった。

学校内に自然豊かな場所ができ、児童や先生、地域の方々の憩いの場所が生まれた。

## ▽住民（職員）の反応・評価

ビオトープの授業では、多くの子どもたちが熱心に説明を聞き、積極的に手を挙げて発表するなど、身近な生き物に対する興味・関心が高いと感じた。

また、整備作業を、地域の方と児童・PTA・学校の先生が集まり、一緒に作業を行ったことで、児童を中心に地域の交流を深めていた。

## ☆取り組み効果を踏まえたフォローアップ

今後も定期的にビオトープや生き物等の状況を確認するとともに、環境学習等のエコリーダー派遣等の支援を行う予定である。

また、今回の取り組みについて、ホームページ等を通じ広く周知啓発を行うことで、他の学校等への普及を促進する。

## ☆将来的な構想のほか、他団体へのアドバイス

平成26年度においても、ビオトープ整備を希望する学校を募集し、モデルケースとして1校で整備を行う予定であり、この2つのモデル校での取り組みが、今後他の学校等にも波及するよう、市のホームページ等で情報発信を行い、広く周知啓発を図っていく。

また、清掃等の維持管理にも児童や地域住民が主体的に関わる体制づくりを行うことで、学校の先生の負担軽減を図ることができる。